

グループホームさわらび
(別紙の2)
自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念の唱和を怠ることなく、常に「共に歩む」の理念を念頭に業務に取り組んでいます。	法人の理念に基づいたコンセプト、施設目標が掲げられている。施設目標は毎年、事業計画と共に見直され、朝夕唱和をすることで職員は互いに理解を深めている。理念にそぐわない言動がある場合にはその都度、管理者が個別に助言している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域自治会へ参加し、地域の一員としての施設が定着出来るよう取り組んでいます。また、年2回の防災訓練、恒例行事化した「夏祭り」「花火大会」等での交流も続いています。本年は、7年に1度の「御柱祭」ということもあり、地区祭の曳行に参加いたしました。	地域自治会に加入し会費を支払っている。総合防災訓練やホームで行う夏祭り、花火大会に地域の方にも参加していただき関係性を築いている。御柱年の本年、地区小宮祭の誘いがあり法被、手作りおんべで参加し楽しく交流できた。オカリナ、腹話術のボランティアの来訪も継続されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人内有資格者による研修会、講演会の開催。外部講師を招いての市民公開講座等を積極的に開催しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回実施。御利用者様は基より、ご家族様代表、広域連合担当者、市担当者、地元区長、介護相談専門員など様々なお立場の方にご参加いただいています。本年より、念願の民生児童委員のご参加が可能となり、より地域連携に貢献できる機会が増えて行くのではないかと考えています。出席率も非常に高く、毎回活発な意見交換が来ています。	3ヶ月に1回、第3木曜日に開催している。今年度から民生委員の参加もあり地域連携がより深められている。今回から広域連合担当者の参加はなくなったが活発に意見交換ができています。内容が業務に活かされるように記録はきちんと整理されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	広域連合主催の研修会への参加、介護福祉課との連携を密に行い、ニーズの収集に努めております。市介護相談専門員2名の定期的な来訪があり、日常の様子を把握して頂くと共に相談専門員の方から貴重な意見や提案等をいただき、ケアに活かしております。訪問日時を予め決める事はせず、ありのままの状況をいつでも見ていただけるようにしています。「グループホーム事業所連絡会」が立ち上がり、3か月に1度のペースで協議会を開催中。	介護相談員2名が、月1～2回来訪し利用者と話をしたり様子をみて結果を報告してくれるのでケアに活かしている。「グループホーム事業所連絡会」ができ、5事業所が市役所に3ヶ月に1回集り、情報交換や共通の課題を話し合う場としている。市や広域担当者とは密に連絡を取り合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束」の知識習得の為の勉強会が、委員会を中心に実施され、積極的な参加ができています。勉強会から得た学びを活かし、「施錠しない介護」の実践に取り組んでいます。年2回の「身体拘束防止」チェックシート点検の実践を行っています。	玄関は日中開錠している。今は落ち着いており外出傾向の強い方はいない。家族の希望で安全のために夜間のみセンサーマットを使用している方がいる。年2回、身体拘束防止チェックシートで自己チェックを行っており、今年度は6月に1回目を実施している。	

グループホームさわらび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「尊厳」を常に意識し、研修会の定期的開催による意識の継続を図り、職員間の相互作用による「虐待防止」認識の効果に努めています。メディアによる情報等を法人として周知し、問題意識として共有しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「個人の尊厳」を意識し、私的財産の保護を意識した関わりを学び、意識できる職員教育に取り組んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	初回面接時から、当施設の特徴を分かり易く説明させていただきます。再度契約時に契約内容の総合的な理解をいただける様努力させて頂いています。介護保険制度改定時には、職員はもとより、ご家族様への周知を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常にご家族様の要望、ご利用者の「思い」を傾聴しています。運営推進会議でも意見の反映等も行っています。また、法人HPでも意見、苦情、要望等の受付を行っております。	ほぼ半数の方が自分の思いを言葉で表出できる。表出できない方には生活歴を基本に傾聴し感じ取っている。家族の来訪は週2～3回から年1回と様々であるが、来訪時には様子を伝え要望等を聞いている。利用者一人ひとりの報告書を作り写真やコメントを記入して「さわらび便り」と共に郵送している。状況を丁寧に知らせることで反応もあり家族との意思疎通が図られている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回全体会議を実施し、意見の吸い上げ等を行い、全体会議で決定した事項については、業務や運営に反映しております。	毎月1回、木曜日か金曜日に全体会議を実施している。欠席する時は事由を届けるなどして全員参加を心がけ、委員会の報告や法人の方針の周知を図り意見交換をしている。欠席者には資料や会議録で周知できている。管理者は個別に声がけし職員から意見を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人規定に則り、給与、福利厚生に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内、専門ケア研修等への積極的参加の促進、希望研修の構築に努力しています。職員個々人の力量の見極め、ステップアップの見極めを行い、提案しています。		

グループホームさわらび

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会参加による、異職種との交流の機会を設け、個々人が学び、成長への糸口が習得できる提案を行っています。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面接を「縁を頂く」と思い、ご家族様、ご利用者様の立場に立ったニーズの把握を行い、信頼関係の構築に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	「ご縁を頂く」の想いに則り、良き支援者であろうと努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様、ご本人様が求めるニーズの把握を主軸とし、専門職としての知識、経験を活かし、生活を実践、支援できるような資源提供を分かり易く説明できる様に努力しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	場面場面での対応時、嫁であり、娘であり、孫であることを演出できる柔軟的発想を心掛けるよう努めております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	共に暮らす事の無いご家族様が、より安心してご家族様に向き合える場である様に、ニーズの把握は基より、ご家族様への配慮の言葉掛けへの周知を行っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所施設としての基本は守りながらも、それまでの人生感、人間関係継続への支援を行っております。	友人、兄弟などの面会がある。誕生日には「思いの実現」としてやりたいこと、食べたい物を聞き取り実現できるように働きかけている。蚕糸博物館にお連れした利用者が以前、糸取りの仕事をされていて話が深まり、家族と共に良い時間を過ごすことができたという。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	人と人の中で、それぞれの人生感を大切に、互いに労わり合える関係性の構築に心配りをしながら、支援に努めています。		

グループホームさわらび

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、「ご縁」を念頭に、ご相談窓口としての役割を継続させて頂いております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中から得る「言葉」「表情」「行動」を軽視せず、情報としてカンファレンスに反映させ、ご本人本位の暮らしの支援を行うように努めております。	ほぼ半数の方は言葉で思いを伝えられる。伝えることが困難な方には表情や動作から感じ取っている。職員同士も情報を報告・記録し共有し利用者の思いや意向を理解するようにしている。押し付けずに本人本位に関わるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ニーズの把握の課程で、生活歴に重きを置き、「その人らしく」を継続出来るようプラン作りに努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	「今日のご本人」への把握を、定期申し送り事項、時間の共有の中で把握できるように努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングでの課題の集約に努め、過剰介護にならない、自立支援を念頭にプランニングするように努めております。	職員はそれぞれ1～2名の利用者を担当している。職員全員から情報を得て計画作成担当者が立案している。過剰介護にならないようにプランニングし、3ヶ月ごとに評価している。状態に変化がある時はその都度見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	5W1Hを基本とし、ご本人の言葉を大切にしながら、日常経過録の作成に努め、変則業務で関わる際の、タイムラグを最小にするよう努めております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内各施設との連携により、専門職間の連携をスムーズに臨機応変、適材適所に心掛けております。必要福祉用具のお試し対応等の協力連携が出来ています。		

グループホームさわらび

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	「出来る事」の把握の中、地域への買い物、献立作りへの参加等を経て、役割意識の継続化を図れるように努めております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携の定着が図れており、緊急時対応への体制が整っております。	従来からのかかりつけ医を継続されている方は三分の一ほどで、状態報告用紙を使用し月1回受診している。他の方は提携医の月1回の往診を受けている。提携医は24時間対応可能で訪問看護ステーションからの訪問もある。ホーム職員の中に看護師がいるので体制は充実している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職の「目配り、気配り、心配り」の徹底により、情報収集、報告、連絡、相談の構築に努めております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医への情報伝達を密にし、入退院がスムーズできる体制が構築されています。ほぼ1週間間隔にて、各医療機関医療連携室へのコンタクトに努め、情報収集を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	法人規定、グループホームによる重度化指針に則り、契約時での説明等、場面場面での説明が、ご家族の想いの傾聴により、段階的に進められるシステムが構築されています。	重要事項説明書に方針が明記されており、利用契約時や状態が変化した時などに段階的に説明し理解を得ている。本人や家族の希望に沿って対応している。人の最期ということで環境を整え、精一杯、後悔しないように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員への「救急救命講習」の推進を行い、委員会活動の中での、緊急時マニュアルの徹底理解を図っております。AED設置済。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	「ミニ防災訓練」を欠かさず、常に一人での行動が実践できるように訓練を積んでおります。年2回の「総合防災訓練・地域と共に・・・」の実施を行い、地域住民の皆様のご協力を頂き、有事の際の避難誘導等への訓練に参加を頂いております。「大規模地震災害対策」への訓練を実施しております。	地域の方の協力を得て、年2回、総合防災訓練を実施している。大規模地震を想定した災害対策訓練、避難通報訓練、本部への連絡訓練も行っている。6月の訓練では平成24年から使っている手作り防災頭巾を着用し、利用者も真剣な様子で避難されたという。	

グループホームさわらび

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「介護は心」を念頭に、関わりの態度、言葉掛けに、心を添えるよう周知徹底を年間通じて行っております。	基本的に苗字に「さん」づけでお呼びしている。利用者の生活歴をふまえて「先生」とお呼びしたり、方言をまじえて話すこともある。個人を尊重した態度で接するようにし、個人情報保護等に関する接遇研修も行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご家族の思い・ご本人の思いに心掛け、「思い」に寄り添える行動の実践に努めております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各勤務における業務マニュアルは実践されているものの、環境、天候等の変動に柔軟に対応し、ご利用者様ニーズ優先を心掛けての支援を実践させて頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの洋服、持ち込みの洋服の管理、保存の徹底を行う中、ご自身の洋服選択への支援を実施し、ご本人らしく過ごす日常を守るよう努めております。身内なら・・・を常に意識しております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週2回、「希望献立日」を設け、食する事への興味の継続、嗜好への支援、食を通じての会話の機会の構築を実践しております。日常的に食事の準備、配膳、片付けにおいても、出来る事を出来る方にして頂くように実践しております。	三分の二以上の方は普通食を自力で召し上がり、数名の方が介助で、ミキサー食や刻み食を召し上がっている。三分の一の利用者は準備、後片付けなどを積極的に手伝っている。水曜日、土曜日は希望献立の日として利用者の希望を取り入れ夕食を作っている。食事作り担当の職員がいるので本来の介護がスムーズにできている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取に関しては、主治医との連携により、1000ml/日を目標に、常に摂取頂けるように支援しております。体に良い食材の提供を心掛け、メニューへの取り込みの為の工夫を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	「口腔から健康維持」を意識し、食後の口腔ケアは、必ず実践。看護師提案「重層水うがい」を開始。口腔内の異常の早期発見に努めております。		

グループホームさわらび

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表は存在するが、個々人の時間を尊重し、出来る限り自立した排泄の支援を心掛けての支援をおこなっています。適度な運動の提案実践中です。	自立の方が三分の二、全介助の方が若干名、他の方は声がけを含め何らかの介助を必要としている。表情、動作から推測して一人ひとりに対応している。介助する時は数を数えながら立ち上がるよう促し、リハビリ訓練の機会にもしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘対策とし、排便チェックによる便秘状況の把握、対応検討を医療面、介護面での支援に努めております。食を通じてのアプローチ実践継続しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日、時間の設定はありますが、ご本人の身心状況への配慮を欠かさず、拒否に関しても臨機応変に対応し、楽しめる入浴への支援を心掛けております。	できるだけ浴槽に浸っていただくことを目標にしている。二人介助が必要な方は数名いる。週2日以上は入浴していただき便失禁やあせもがある時はシャワー浴もプラスしている。拒否される時は「さわらび温泉もどうですか」、「一番風呂にどうぞ」など楽しい気分になるように声がけしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々人の体調、体力への配慮を怠ることなく、個人の時間を過ごせる配慮を行っております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病歴の把握を基本情報の確認で行い、処方薬の効能、適応根拠の理解を徹底出来るように努めております。医療連携により、適材適所服薬コントロールへの検討、提案を実践しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	「出来ることを、出来るだけ」を基本に、個々人への役割意識への提案を行い、達成感への共有に努めております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域への買い物、必要物品の購入時の外出、誕生日での「想いの実現」に向け、ご家族様のご家族に対する想いの傾聴、「想いの実現」具現化への同席交渉等、家族の絆の継続が図れるよう努めております。	自力歩行、杖歩行、車いす、それぞれ三分の一ほどいる。「想いの実現」にむけ家族同伴で希望の場所に出かけたり、地域に買い物に出かけている。ホームのウッドデッキは陽当たりも良く外気浴に適しており、気分転換の場となっている。	

グループホームさわらび

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々人が実際に現金を所持し、使用することはないが、嗜好品購入、必要物品の補充等、ご家族様を巻き込みながら支援しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	想いの傾聴の中で、希望に添えるような支援を心掛けております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	委員会を中心とした、環境整備を実施した上、個人の環境が保て、安全性を確保できるように支援に努めております。季節の装飾に心がけています。	各フロアは広く、台所、食堂、ソファが置かれているリビングへと続き、天井も高く窓も大きいので広々として日当たりよく、明るい雰囲気である。壁には利用者の手作り作品や季節の写真が飾られている。床はきれいに磨かれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	新聞、雑誌、生花、などを自由に手にしたり、感じたり出来るように工夫をし、それぞれの想いの赴く行動が制限されないよう支援できるように努めております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は個人の空間である事を認識し、節度を持って対応する事を心掛け、プライバシーを保てるように接する配慮を行っています。面会時、個人の居室での面会が楽しく行える配慮にも努めております。	利用者に合わせた空間ができている。好みに応じてベッドが配置され、来客の接待ができるように座卓が準備されている居室もある。押し入れが収納スペースとなり、すっきりとして清潔な居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	過度な福祉設備はなく、出来る限りの「自立」を支援出来る環境づくりに心掛けております。		